

# 「いじめやハラスメントのない学校にするために～人権を確かめあうアンケート～」

## 結果資料

奈良県教育委員会

### 【実施目的】

- 県内の児童生徒が「いじめ」の被害者にも加害者にもなることがないように、また、教職員の言動により児童生徒が肉体的・精神的に苦痛を感じるような「ハラスメント」が起きることがないように、お互いに人権を確かめあうとともに、学校環境を点検する機会とする。
- 実施結果を、人権尊重の視点に立った学校づくりの推進に役立てる。

### 【実施方法等】

- 実施対象 県内の公立学校（小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校）の児童生徒
- 実施方法 Google Workspace for Educationを使用し、各学校においてパソコン等を用いて回答する。  
回答は無記名とし、個人のアカウントは記録されないようにして行う。
- 実施期間 令和3年12月11日（土）の「人権を確かめあう日」を基準日として実施
- 実施状況 回答数等

<回答学校数合計>	332校	
小学校	185校	
中学校	94校	
義務教育学校	4校	
高等学校	42校	
特別支援学校	7校	
<児童・生徒数合計>		99,587人
小学校（義務教育学校前期・特別支援学校小学部を含む）		55,981人
中学校（義務教育学校後期・特別支援学校中学部を含む）		25,898人
高等学校（特別支援学校高等部を含む）		17,708人

### 【資料の項目】

- (1) 「いじめ」と感じるようなことをされて嫌な気持ちになったこと（被害）
- (2) 相手を嫌な気持ちにさせたこと（加害）
- (3) 今の気持ち
- (4) 「違い」について
- (5) 教職員の言動について

※結果資料内の表記について

「スマホ等」とは、アンケート中の「パソコンや携帯電話、スマートフォンなど」のこと。

「スマホ等以外」とは、「パソコンや携帯電話、スマートフォンなど以外」のこと。

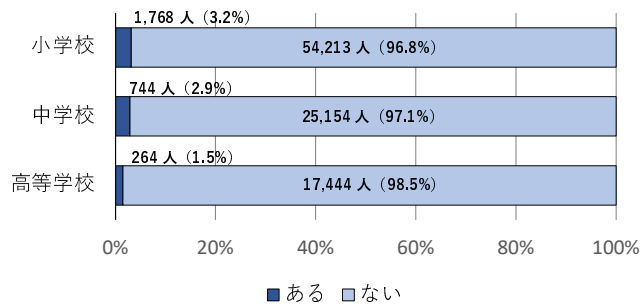
「被害」とは、「いじめとを感じるようなことをされて、嫌な気持ちになったこと」とする。

「加害」とは、「嫌な気持ちにさせたこと」とする。

# (1) 「いじめ」と感じるようなことをされて嫌な気持ちになったこと(被害)

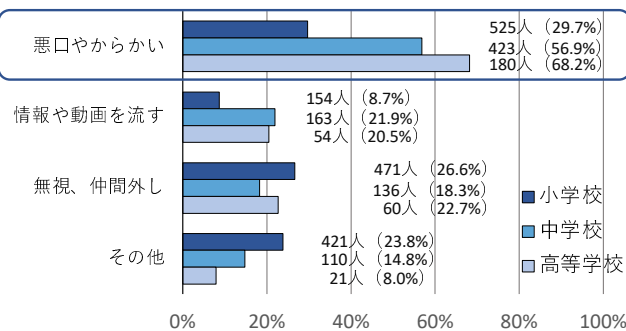
## スマホ等

### 問1 被害の有無



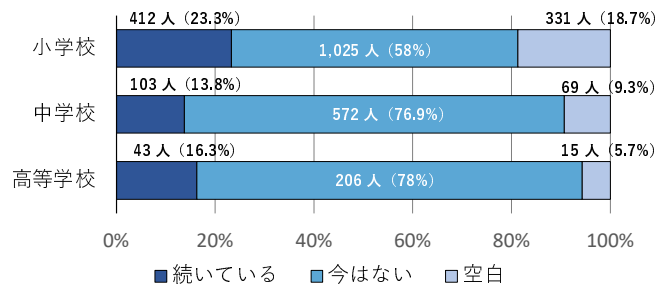
(問1で「ある」と回答した児童生徒について)

### 問2 被害の内容 (複数回答可)



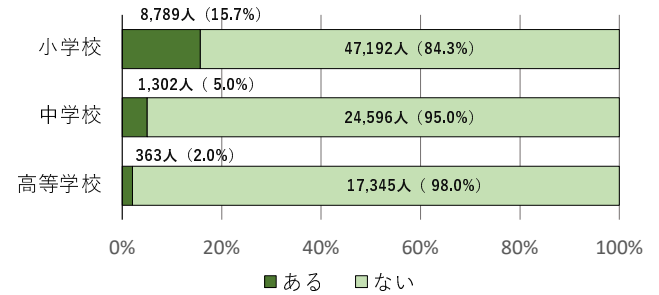
- ・オンラインゲームで自分だけ集中的に攻撃された
- ・クロームブックを無理矢理ログアウトされた
- ・クロームブックで勝手に性的なこと等を検索された 等

### 問3 被害の継続状況



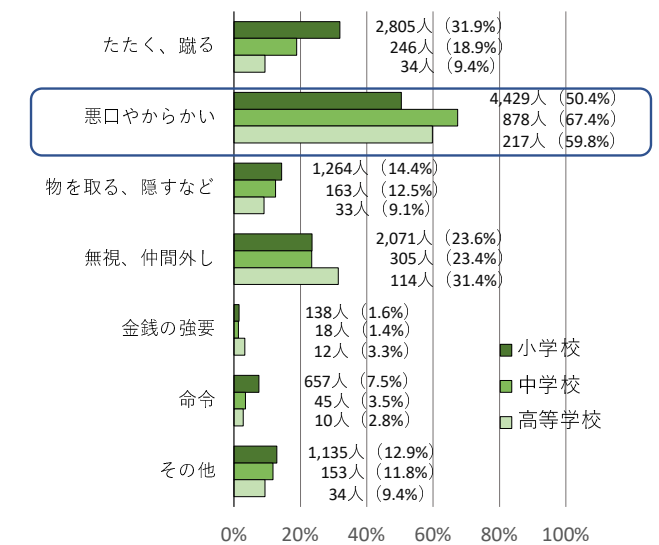
## スマホ等 以外

### 問4 被害の有無



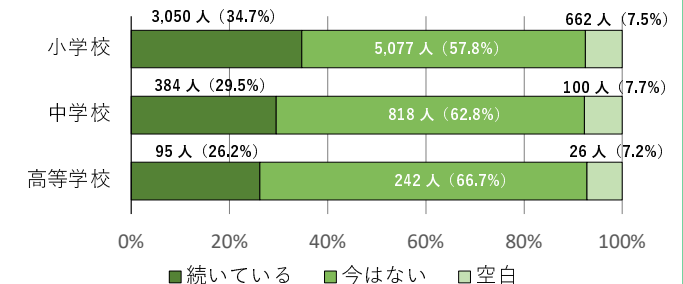
(問4で「ある」と回答した児童生徒について)

### 問5 被害の内容 (複数回答可)



- ・わざとぶつかられたり、押されたりした
- ・鞆や筆箱を勝手に触られた
- ・ふざけて名前を変えたり、嫌なあだ名で呼ばれた 等

### 問6 被害の継続状況



嫌な気持ちになったことが「ある」と回答した児童生徒は、スマホ等、スマホ等以外のどちらの場合も

**学校段階が進むにつれ、割合は下がる傾向にあった。**

その内容は、どちらの場合も、**悪口やからかいが多かった。**

### クロス集計1 被害の重なり スマホ等 (問1) × スマホ等以外 (問4)

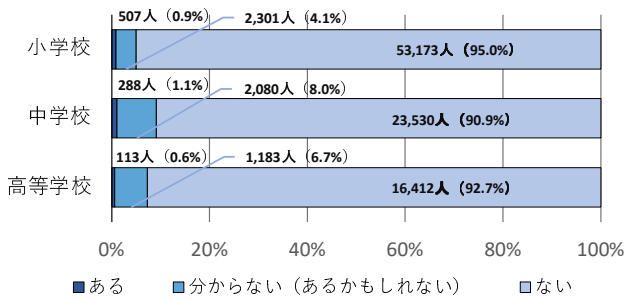
	スマホ等のみ	どちらとも	スマホ等以外のみ	嫌な気持ちになった児童生徒
小学校	951人 (9.8%)	817人 (8.4%)	7972人 (81.8%)	9740人
中学校	508人 (28.1%)	236人 (13.0%)	1066人 (58.9%)	1810人
高等学校	185人 (33.8%)	79人 (14.4%)	284人 (51.8%)	548人

**学校段階が進むにつれ、スマホ等での被害の割合が上がる傾向にあった。**

## (2) 相手を嫌な気持ちにさせたこと(加害)

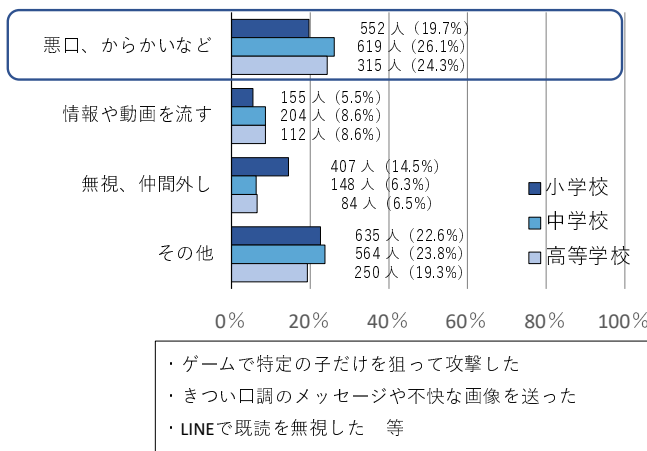
### スマホ等

#### 問7 加害の有無



(問7で「ある」「分からない(あるかもしれない)」と回答した児童生徒について)

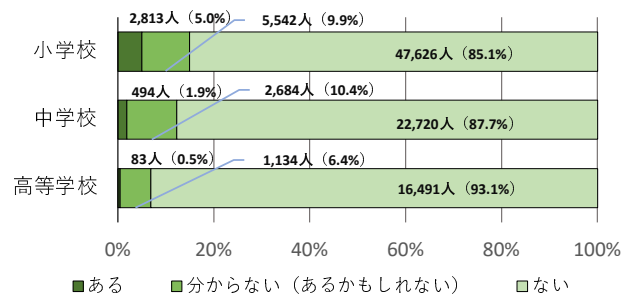
#### 問8 加害の内容(複数回答可)



相手を嫌な気持ちにさせたことが「ある」と回答した児童生徒は、小・中学校では、**スマホ等よりスマホ等以外が多く**、高等学校では、**スマホ等の方が多かった**。  
 その内容は、どちらの場合も、**悪口やからかいが最も多かった**。

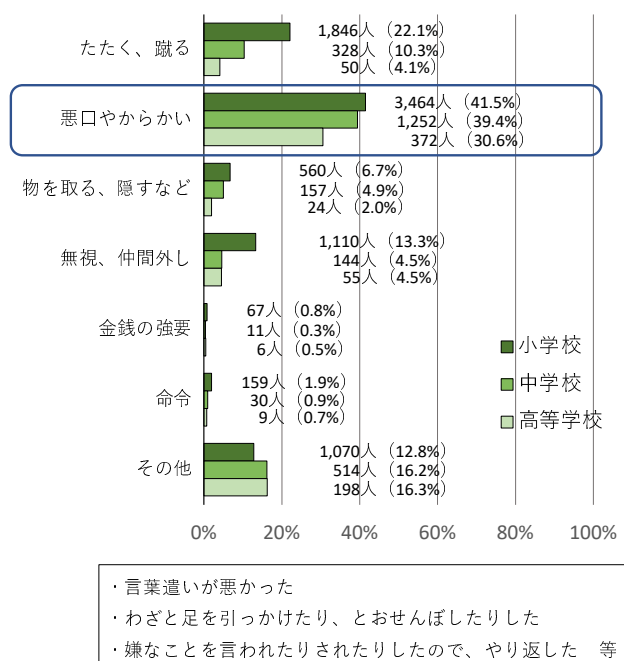
### スマホ等 以外

#### 問9 加害の有無



(問9で「ある」「分からない(あるかもしれない)」と回答した児童生徒について)

#### 問10 加害の内容(複数回答可)



#### クロス集計2 加害の重なり スマホ等(問7) × スマホ等以外(問9)

	スマホ等のみ	どちらとも	スマホ等以外のみ	嫌な気持ちにさせた児童生徒
小学校	344人 (10.9%)	163人 (5.2%)	2650人 (83.9%)	3157人
中学校	229人 (31.7%)	59人 (8.2%)	435人 (60.2%)	723人
高等学校	90人 (52.0%)	23人 (13.3%)	60人 (34.7%)	173人

**学校段階が進むにつれ、スマホ等での加害の割合が上がる傾向にあった。**  
 高等学校では65%を超えている。

#### クロス集計3 加害と被害の重なり

スマホ等での加害(問7) or スマホ等以外での加害(問9)がある児童生徒  
 × スマホ等での被害(問1) or スマホ等以外での被害(問4)がある児童生徒

	嫌な気持ちにさせた(加害の)児童生徒	のうち	嫌な気持ちになった(被害の)児童生徒
小学校	3,157人	のうち	1,496人 (47.4%)
中学校	723人	のうち	201人 (27.8%)
高等学校	173人	のうち	50人 (28.9%)

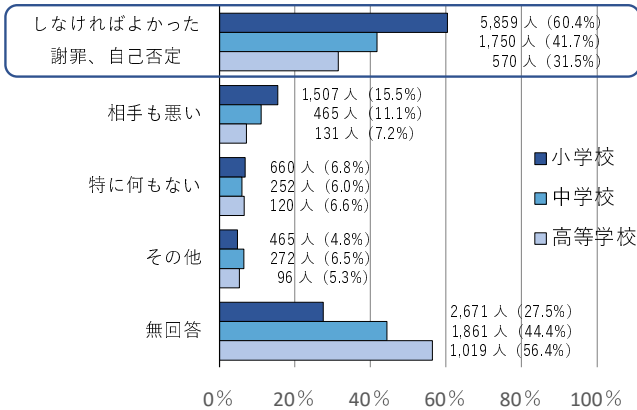
#### 加害と被害には重なりがある。

嫌な気持ちにさせたことがある児童生徒のうち、小学校では50%弱、中学校、高等学校では、30%弱が嫌な気持ちになったこともわかった。

### (3) 今の気持ち

(問7または問9で、「ある」「分からない(あるかもしれない)」と回答した児童生徒について)

#### 問11 嫌な気持ちにさせたことに対する今の気持ち



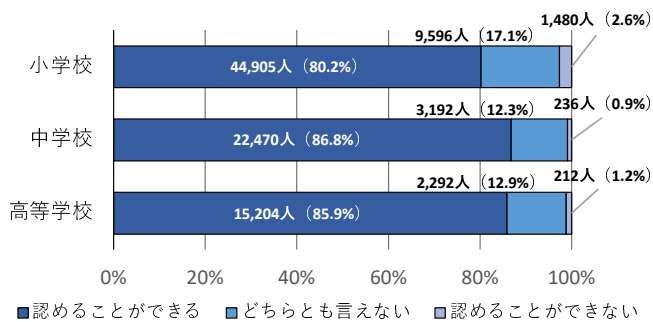
- ・次からは気をつけようと思っている
- ・なんでそんなことをしてしまったんだろうと思っている
- ・やってしまった自分が恥ずかしい 等

学校段階が進むにつれ、無回答の割合が高くなる傾向にあった。

その他の自由記述には、後悔や反省の言葉、今後気をつけるという回答が多く見られた。

### (4) 「違い」について

#### 問16 「違い」に対する考え

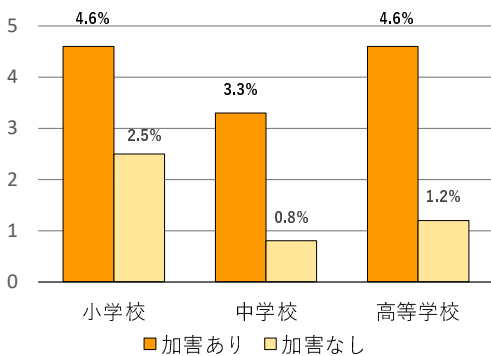


小学校では、学年が上がるにつれ、「認めることができる」割合は高くなるが、中学から高校では、割合にさほど変化がなかった。

#### クロス集計4 加害と違いに対する考えの関係

スマホ等orスマホ等以外での加害の有無 × 「違い」に対する考え (問16)

#### 「違いを認めることができない」を選択した割合

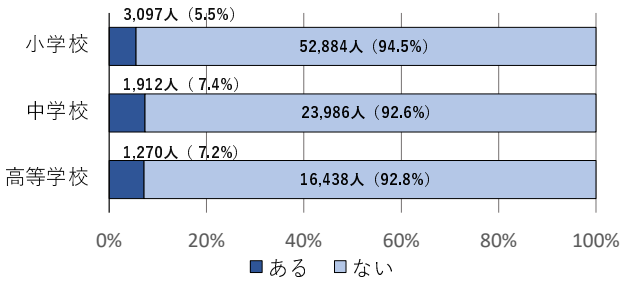


		認めることができる	どちらとも言えない	認めることができない	総計
小学校	加害がある	2,347	664	146	3,157
	加害がない	42,558	8,932	1,334	52,824
中学校	加害がある	574	125	24	723
	加害がない	21,896	3,067	212	25,175
高等学校	加害がある	136	29	8	173
	加害がない	15,068	2,263	204	17,535

加害が「ある」と回答した児童生徒は、加害が「ない」と回答した児童生徒より、全ての校種において「違いを認めることができない」の割合が高くなった。

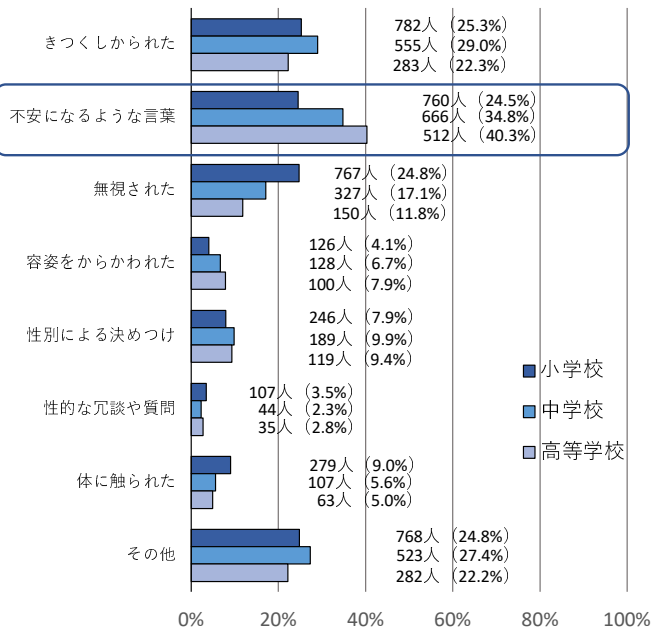
## (5) 教職員の言動について

### 問12 嫌な気持ちになったことの有無



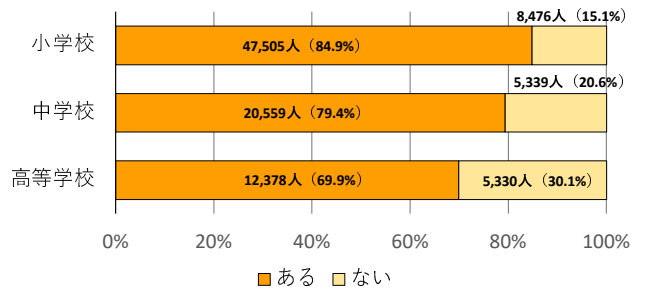
(問12で「ある」と回答した児童生徒について)

### 問13 嫌な気持ちになったことの内容 (複数回答可)



- ・話を聞いてくれない、信じてくれない
- ・私がやったことだと決めつけられる
- ・男女によって態度や接し方が違う
- ・えこひいきをされた 等

### 問14 うれしい気持ちになったことの有無



(問14で「ある」と回答した児童生徒について)

### 問15 教職員にしてもらったことの内容 (複数回答可)

小学校		
1 楽しくわかりやすい授業	32,269人	67.9%
2 困っているとき助けてくれた	21,417人	45.1%
3 努力を認めてくれた	21,190人	44.6%
4 納得いくように話してくれた	19,402人	40.8%
中学校		
1 楽しくわかりやすい授業	12,601人	61.3%
2 努力を認めてくれた	9,058人	44.1%
3 困っているとき助けてくれた	7,001人	34.1%
4 同じように接してくれた	6,866人	33.4%
高等学校		
1 楽しくわかりやすい授業	5,681人	45.9%
2 努力を認めてくれた	5,318人	43.0%
3 悩みや相談をよく聞いてくれた	3,361人	27.2%
4 困っているとき助けてくれた	3,321人	26.8%

(問14で「ない」と回答した児童生徒について)

### 問15 教職員にしてほしいことの内容 (複数回答可)

小学校		
1 楽しくわかりやすい授業	4,784人	56.4%
2 納得いくように話してほしい	2,028人	23.9%
3 困っているとき助けてほしい	1,916人	22.6%
4 努力を認めてほしい	1,797人	21.2%
中学校		
1 楽しくわかりやすい授業	2,821人	52.8%
2 同じように接してほしい	1,749人	32.8%
3 納得いくように話してほしい	1,319人	24.7%
4 努力を認めてほしい	1,184人	22.2%
高等学校		
1 楽しくわかりやすい授業	2,839人	53.3%
2 同じように接してほしい	1,198人	22.5%
3 納得いくように話してほしい	1,111人	20.8%
4 努力を認めてほしい	912人	17.1%

教職員の言動によって嫌な気持ちに児童生徒の割合は、**校種間で大きな差はなかった。**

嫌な気持ちになったのは、中学校・高等学校では、「**不安になるようなことを言われた**」が最も多かった。

教職員の言動によって嬉しい気持ちになった児童生徒の割合は、**学校段階が進むにつれ、下がる傾向にあった。**

嬉しい気持ちになったことも、教職員にしてほしいことも、どの校種においても、「**楽しくわかりやすい授業**」が最も多かった。また、上位を占める項目は、**校種間での差はあまり見られなかった。**